

## 投資事業評価調書（継続：再評価〔第1回〕）

部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 神山 泰 (国道・橋梁班長 橋本直樹)	内線	4362 (4378)
------	-------------------	---------------------	-------------------------------	----	----------------

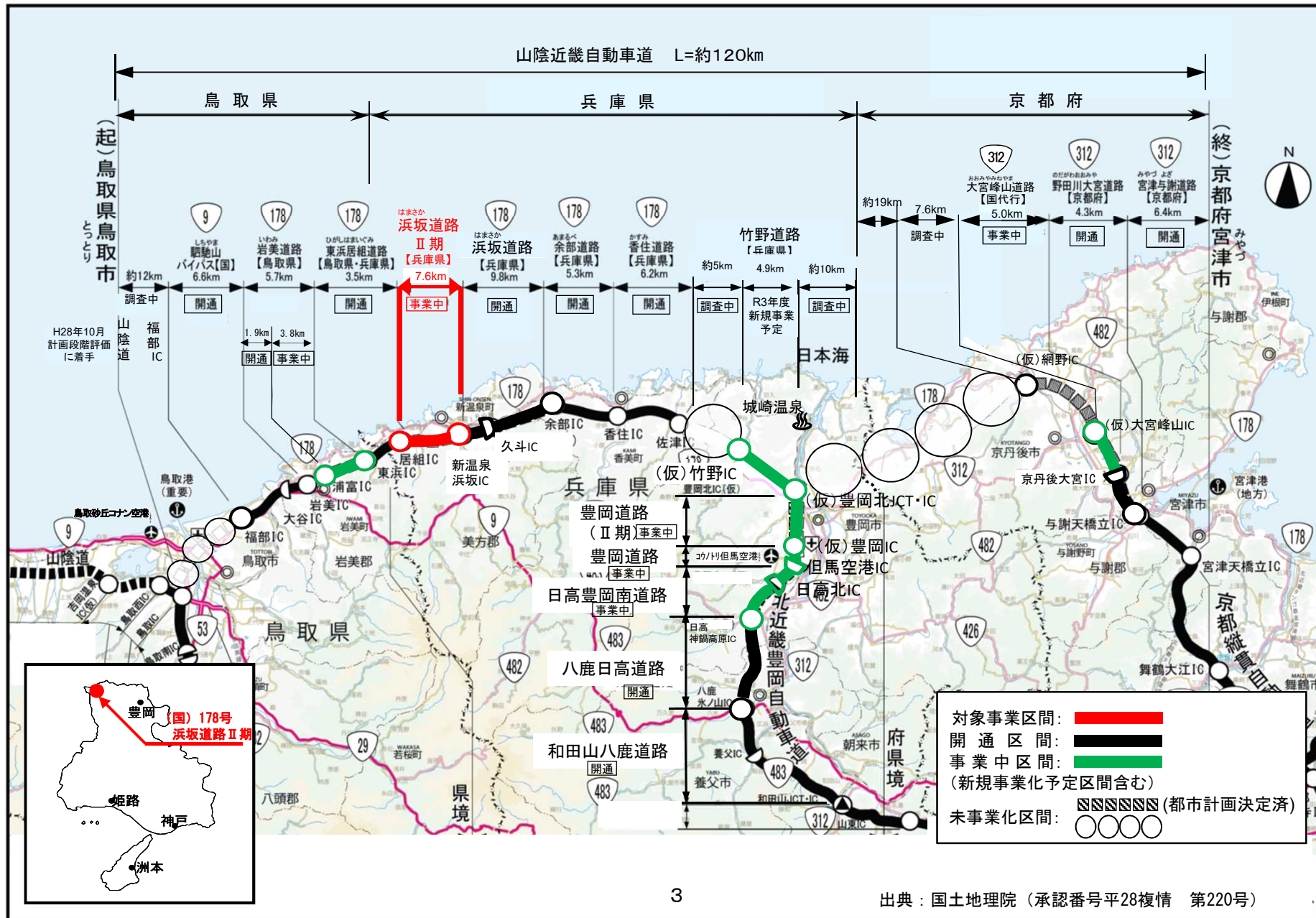
事業種目	道 路	新規評価年度	平成29(2017)年度	現計画	新規評価時点
事業名	道路改築事業 一般国道 178号 〔浜坂道路Ⅱ期〕	事業採択年度	平成30(2018)年度	総事業費	465億円 365億円
		着工年度	令和元(2019)年度	内地補償費	6億円 5億円
事業区間	美方郡新温泉町 <sup>とちだに</sup> 枌谷 <sup>いぐみ</sup> ～居組	完成予定年度	令和8(2026)年度	令和7(2025)年度	
		進捗率 (用補進捗率)	約7% (96%)		
		残事業費	431億円		
事業の目的			事業内容 ( ) 新規評価時点		
<p>本路線は、基幹道路八連携軸の日本海沿岸軸として、環日本海地域の交流を強化し、広域高速道路ネットワークを形成する山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）の一部区間である。</p> <p>○高速道路ネットワークの形成 日本海側の高速道路網のミッシングリンクを解消し、北近畿豊岡自動車道、鳥取自動車道とともに国土のリダンダンシーを確立する。</p> <p>○広域観光交流圏の拡充・強化 山陰海岸ジオパークをはじめとする広域観光交流圏の拡充・強化、交流人口の拡大を図る。</p> <p>○地域の安全・安心の向上 線形不良の解消等による3次救急医療病院（鳥取県立中央病院）へのアクセス性向上により、地域の医療環境の向上を図る。</p>			<p>【延長】 7.6km 【構造規格】 第1種第3級 【幅員】 車道 7.0m[全幅 13.5m][代表断面] (車道 7.0m[全幅 12.5m]) [代表断面] 【計画交通量】 8,680台/日[R12予測] (8,950台/日[R12予測]) 【現況交通量】 自動車：6,166台/日[H27センサス] 自転車：50台/12h[H27センサス] (2台/12h[H22センサス]) 歩行者：48人/12h[H27センサス] (26人/12h[H22センサス]) 【負担割合】 国：55% 県：45%</p>		
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	<p>平成29(2017)年11月に浜坂道路(余部IC～新温泉浜坂IC間の9.8km)が供用開始し、新温泉浜坂ICに近接した道の駅「山陰海岸ジオパーク浜坂の郷」がオープンした(約6万人[H29年])</p> <p>【新規評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 ①高規格幹線道路における正面衝突等の死亡事故防止のため、中央分離帯設置の分離構造への断面変更(簡易分離→分離構造)により、工事費を約100億円増額する。 ②上記①に伴い工事に長期間要するため、完了年度を令和8(2026)年度に変更する。</p>				
進捗状況	<p>【用地】 令和元(2019)年度より用地取得に着手し、令和2(2020)年10月末時点で用地取得進捗率(面積ベース)は96%であり、令和2(2020)年度中の用地取得完了を目指す。 【工事】 令和元年度に居組IC道路改良工事に着手した。現在、居組IC道路改良工事や工事用道路設置工事を実施している。</p>				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び対応方針 (H29年度新規評価)	【審査会意見】 着手妥当 当工区を含む山陰近畿自動車道は、基幹道路ネットワークの一部を担うことから早期完了に取り組まれたい。		【対応方針】 早期完了に向け、事業推進に取り組む。		
(1)必要性	<p>①日本海側の高速道路網のミッシングリンクを解消し、北近畿豊岡自動車道と鳥取自動車道のダブルネットワークの形成により、大規模災害発生時の緊急支援助物資の輸送ルート確保や災害復旧の迅速化など、災害に強い日本海国土軸を形成する。 ②山陰海岸ジオパークをはじめとする多様な観光拠点・観光資源へのアクセスを向上させることにより、広域観光交流圏を拡充・強化し、交流人口の拡大を図る。 ③本道路の整備により、3次救急医療病院（鳥取県立中央病院）へのアクセス性の向上を図り、地域の医療環境の向上を図る。</p>				
(2)有効性 ・効率性 (執行環境状況)	<p>①山陰近畿自動車道の佐津IC～鳥取間(約57km)における県内最後の未事業化区間である。本事業完了により、鳥取自動車道から山陰近畿自動車道へつながる高速道路ネットワークが形成される。 ②完成後の現道の管理引継について、新温泉町と協議が整っている。 ③新温泉町が運営する残土処分場が利用開始されたことにより、本事業で発生する残土の受け入れ体制が整っている。 ④費用便益比B/C=1.1(前回評価時B/C=1.3) 残事業B/C=1.2</p>				
(3)環境適合性	<p>①事業区間に生育する貴重種を生育適地へ移植するなど、環境保全を図る。 ②市街地の通過交通が本道路に転換されることにより、大型車等の排気ガスや交通騒音などに対する沿道環境が改善される。</p>				
(4)優先性	<p>①安全で円滑な交通を確保するため、早期に事業を完了させる必要がある。 ②高速道路ネットワーク及び兵庫県北西部と鳥取県東部を結ぶ県内最後の未整備区間のため、早期に事業を完了させる必要がある。</p>				
再評価の結果	継続	左の理由	事業の必要性・有効性等は事業採択時と変わっておらず、当該区間の早期供用を望む地元の声が強いため、継続して事業を実施する必要がある。		

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第1回〕）

事業名	道路事業	路線・河川名	道路改築事業 一般国道178号〔浜坂道路Ⅱ期〕
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="188 369 375 526"> <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><span style="color: red;">—</span> 対象区間</li> <li><span style="color: blue;">—</span> 整備区間</li> <li><span style="color: purple;">—</span> 高速道路</li> <li><span style="color: brown;">—</span> 一般国道</li> <li><span style="color: green;">—</span> 主要地方道</li> <li><span style="color: yellow;">—</span> 一般県道</li> </ul> </div> <div data-bbox="167 358 1540 1120"> </div> <div data-bbox="989 1070 1197 1120"> <p><b>事業概要</b></p> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p><b>横断図</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="175 1198 438 1377"> <p><b>土工部</b></p> </div> <div data-bbox="502 1198 694 1377"> <p><b>橋梁部</b></p> </div> <div data-bbox="766 1198 965 1377"> <p><b>トンネル部</b></p> </div> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>延 長：7.6km 幅 員：7.0(13.5)m (2車線 設計速度80km/h) 工事概要：トンネル 6本 (5,694m) 75% 橋梁 5基 (700m) 9% 総事業費：465億円 計画交通量：8,950台/日 事業期間：H30～R8</p> </div>			
事業進捗状況・予定		整備効果	
<p>全体 (H30(2018)～ R8(2026))</p>	<p><b>【事業費＝ 約465億円】</b> 延長7,600m 新温泉浜坂 IC～居組 IC トンネル6本、橋梁5橋、用地：10.8万㎡</p>		
<p>事業採択～ 再評価まで (H30(2018)～ R2(2020))</p>	<p><b>【事業費＝ 約34億円】</b> 事業進捗率7%、用地進捗率96% ・用地取得面積10.4万㎡ ・居組IC改良工事及び工事要道路設置工事に着手</p>		
<p>今後6年間 (R3(2021)～ R8(2026))</p>	<p><b>【事業費＝ 約431億円】</b> 令和8(2026)年度 全線供用予定</p>	<p>① 高速道路ネットワークの形成 ② 広域観光交流圏の拡充・強化 ③ 地域の安全・安心の向上</p>	



# [事業概要]山陰近畿自動車道 (国)178号 浜坂道路Ⅱ期



# 高規格道路ネットワークの形成

大規模広域災害時に日本海国土軸が救援、復興、経済の基軸となる。



凡例

高速自動車国道	供用区間
	供用区間(直轄)
	整備計画区間
	整備計画区間(直轄)
	基本計画区間
	予定路線区間
一般国道自動車専用道路	供用区間
	事業区間
	計画区間
高速自動車国道に並行する自動車専用道路	供用区間
	事業区間

太平洋国土軸は災害リスクが高い。  
(南海トラフ地震、東海地震、首都直下型地震)

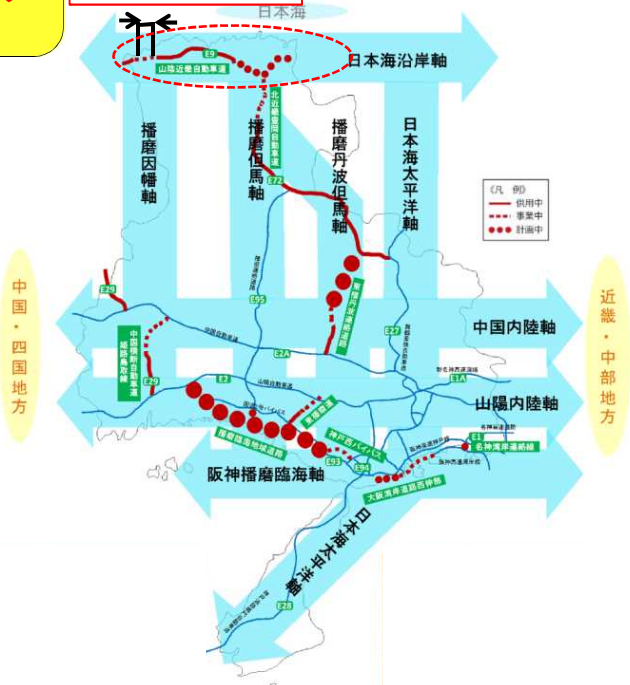
# 基幹道路八連携軸の整備

- ・基幹道路八連携軸は県土の骨格を形成し、広域的な地域間連携と交流を促進。
- ・令和2年4月現在で約750km(82%)が供用し、約60km(7%)が事業中
- ・基幹道路八連携軸の中で日本海沿岸軸の整備が遅れている。  
供用率 45%(最も低い)、未着手率40%(最も高い)

軸名称	延長 (km)				整備路線
	供用中	事業中	未着手	合計	
日本海沿岸軸	23.2 ( 45.7%)	7.6 ( 15.0%)	20.0 ( 39.4%)	50.8	山陰近畿自動車道
中国内陸軸	121.6 ( 100.0%)	0 ( 0.0%)	0.0 ( 0.0%)	121.6	
山陽内陸軸	127.8 ( 100.0%)	0 ( 0.0%)	0.0 ( 0.0%)	127.8	
阪神播磨臨海軸	141.3 ( 63.0%)	21.4 ( 9.5%)	61.5 ( 27.4%)	224.2	名神沿岸連絡線、大阪湾岸道路西伸部、神戸西バイパス、播磨臨海地蔵道路
播磨因幡軸	22.2 ( 66.1%)	11.4 ( 33.9%)	0.0 ( 0.0%)	33.6	中国横断自動車道姫路鳥取線
播磨但馬軸	88.5 ( 87.0%)	13.2 ( 13.0%)	0.0 ( 0.0%)	101.7	北近畿豊岡自動車道
播磨丹波但馬軸	49.7 ( 64.8%)	10.0 ( 13.0%)	17.0 ( 22.2%)	76.7	東播磨道、東播磨丹波連絡道路
日本海太平洋軸	180.3 ( 100.0%)	0 ( 0.0%)	0.0 ( 0.0%)	180.3	
合計	754.6 ( 82.3%)	63.6 ( 6.9%)	98.5 ( 10.7%)	916.7	

注) 1 各路線の延長は兵庫県内の延長である。  
2 ルートの定まっていない路線については想定延長としている。

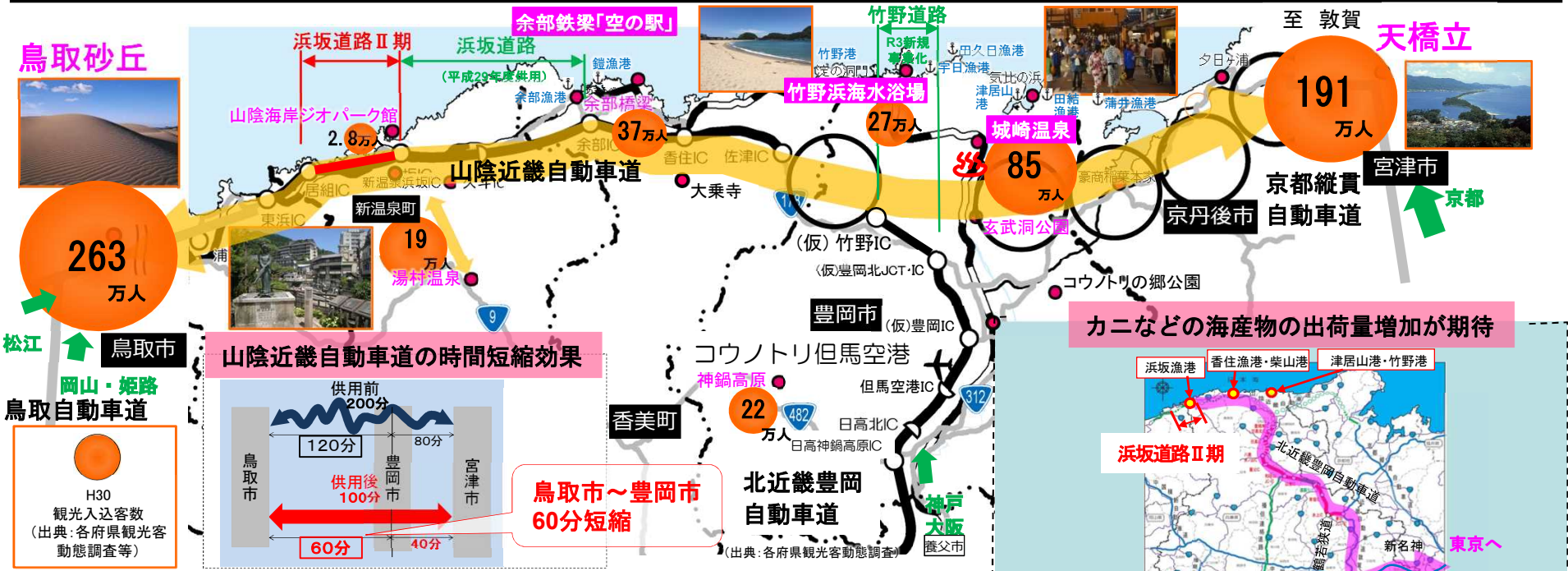
## 浜坂道路Ⅱ期





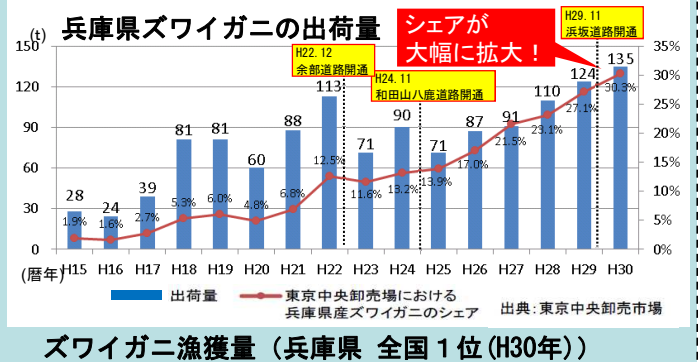
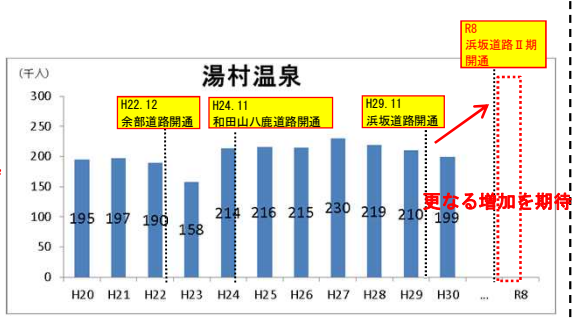
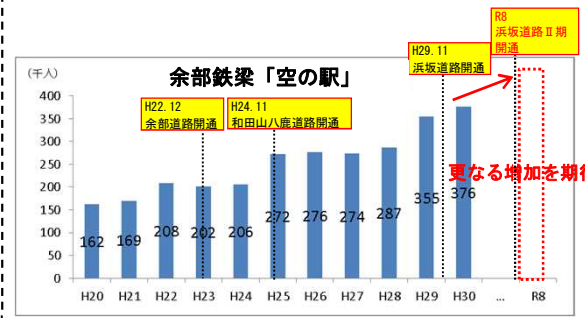
# [事業の必要性] 広域観光の強化及び地域産業振興による地域活性化

- ・高規格道路の整備効果で周辺の観光地では観光客が増加する傾向にあり、今後の整備の進展により、山陰海岸ジオパークを活用した観光の活性化が期待
- ・山陰近畿自動車道の開通により、移動時間の短縮、定時性の確保等、観光地間の周遊性を高め、地域の観光客の更なる増加に期待



## 「浜坂道路Ⅱ期」の開通により観光客増加を期待

「山陰近畿自動車道」「北近畿豊岡自動車道」開通による観光客増加を期待



(出典: 兵庫県観光客動態調査報告書)

# [事業の必要性]現道の課題解消

- ・国道178号は緊急輸送道路、緊急交通路であるが、異常気象時通行規制区間、線形不良箇所(5箇所)、道路防災総点検危険箇所が存在。
- ・線形不良箇所等において、過去8年間(H24~R1)で47件の事故が発生。
- ・高速道路の整備により、災害に強い安全な交通を確保する。

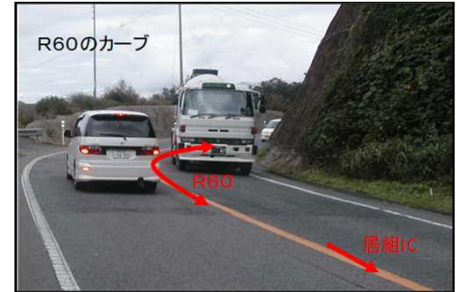


写真1 線形不良箇所

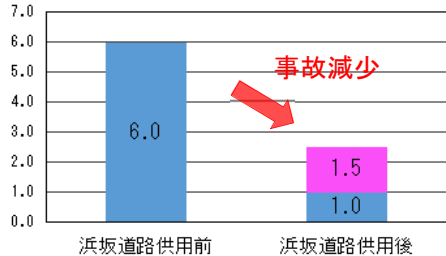


写真2 道路防災総点検危険箇所



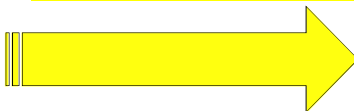
写真3 降雪時の通行不良

浜坂道路供用に伴う事故件数推移(平均値)



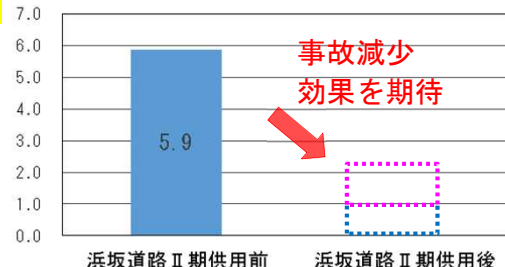
■ (国)178号 ■ 浜坂道路  
 (旧)178号  
 (浜坂道路供用後)

同様の効果が期待



高速道路の死傷事故の発生率は、一般道路の10分の1  
 (高速道路を中心とした「道路を賢く使う取組」の基本方針)

浜坂道路Ⅱ期供用区間の事故件数(平均値)

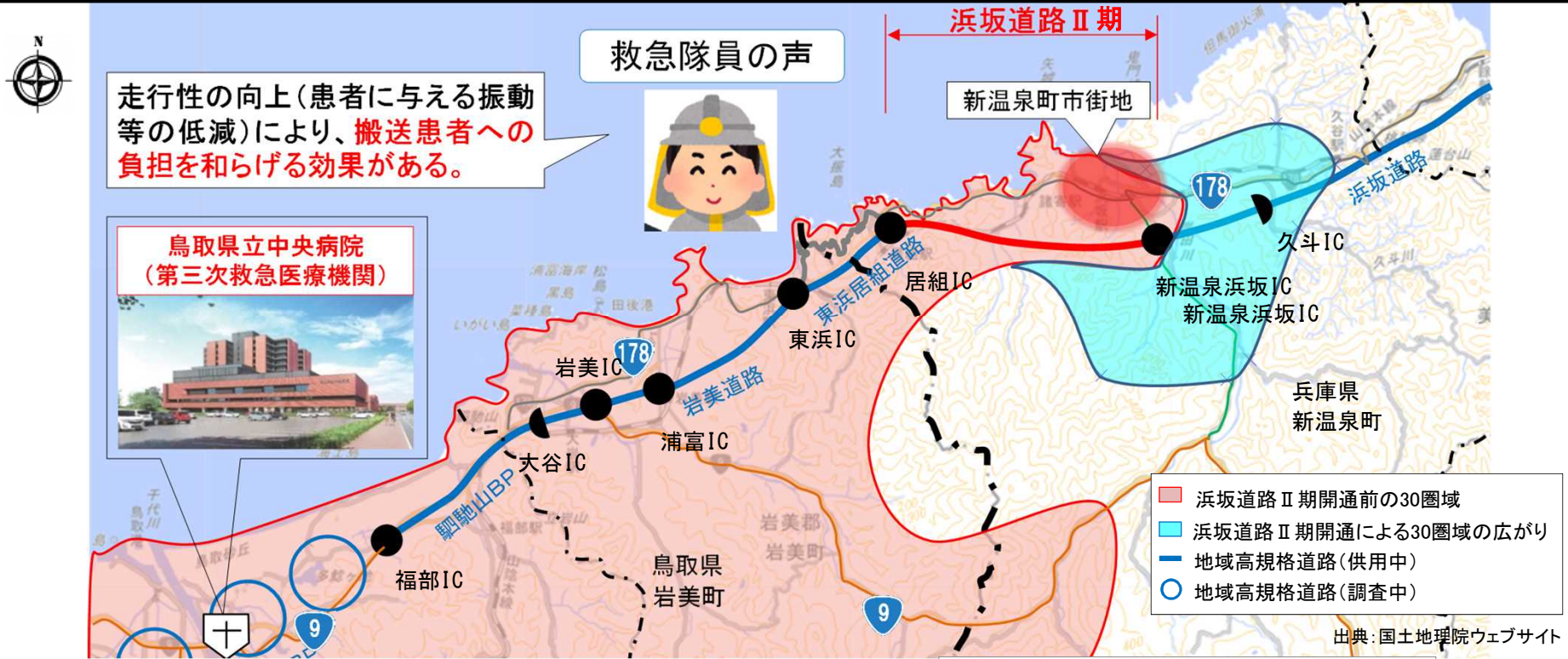


■ (国)178号 ■ 浜坂道路Ⅱ期  
 (旧)178号  
 (浜坂道路Ⅱ期供用後)

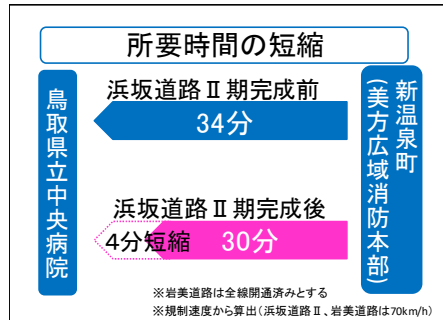


# [事業の必要性]地域の医療環境の向上

- ・第三次救急医療機関(鳥取県立中央病院)へ30分以内に搬送される新温泉町内の人口カバー率が1.3倍に拡大(約60%)
- ・高いレベルの医療サービスを受けやすくなり、地域によって受けられる医療の格差を改善



【事業中箇所(浜坂道路Ⅱ期、岩美道路)完成後の時間比較】

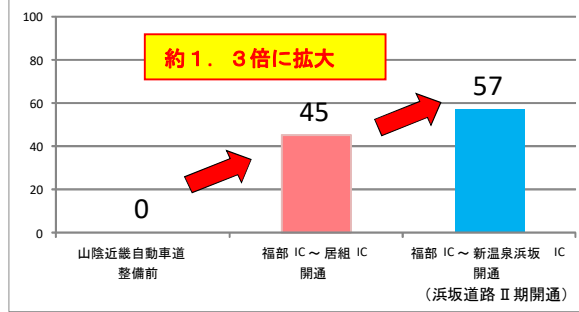


【山陰近畿自動車道整備前後の時間比較】



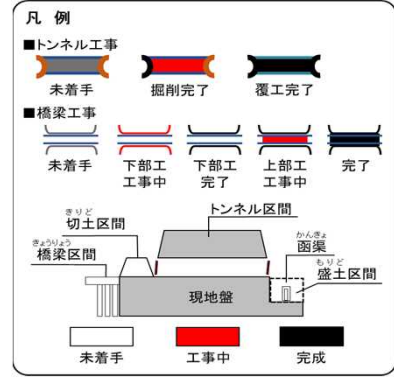
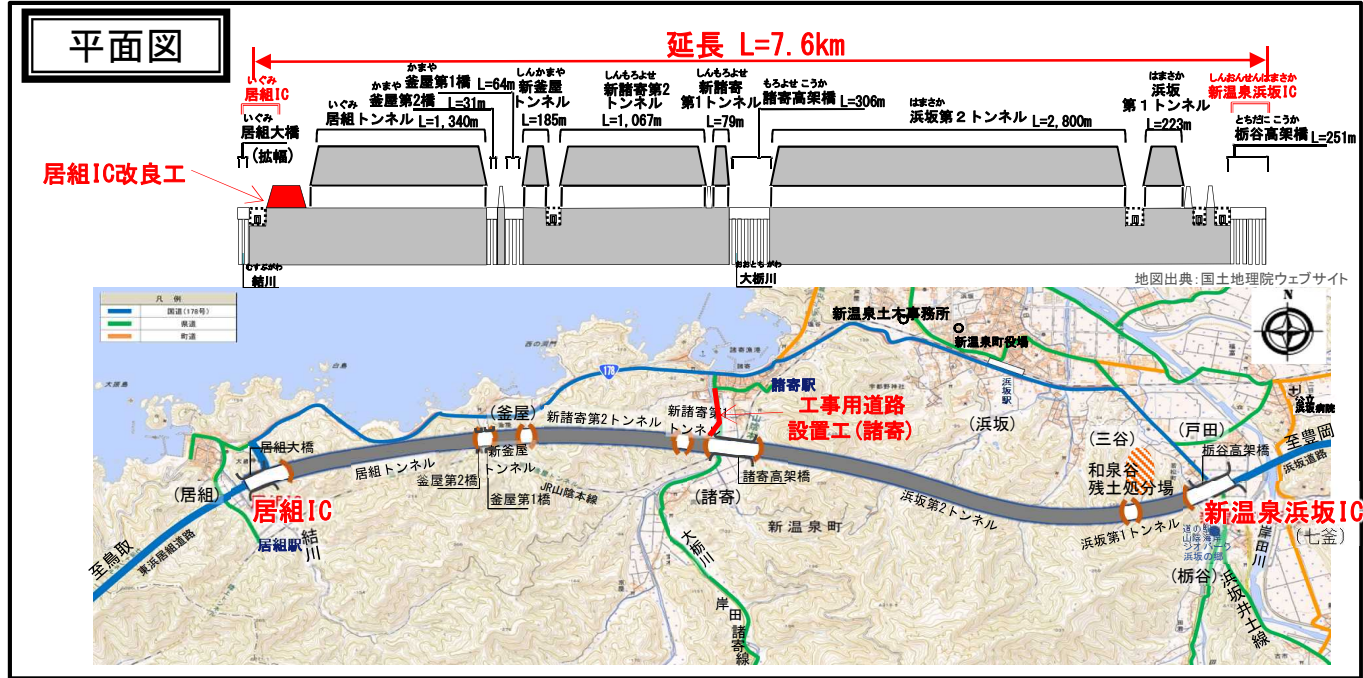
※: 住民基本台帳(H28.10現在)を基に算出 ※30分圏域はH22センサス12h平均旅行速度より算出  
(鳥取BP、駒馳山BP、岩美道路、浜坂道路Ⅱは70km/h、市道町道は30km/h)

< 30分圏域人口カバー率(新温泉町内) >



# 進捗状況

## 平面図



## 工程表

■ : 前回評価 (H29)  
■ : 実施・計画

工種	年度									
	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	
調査・設計	■									
用地補償		■								
道路改良工事			■							
橋梁工事			■							
トンネル工事			■							



浜坂道路区間(供用済)の状況



豊岡方面

道の駅「山陰海岸ジオパーク浜坂の郷」



起工式(R1.11.10)



事業中区間の整備状況



## 事業の有効性・効率性

### (1) 費用対効果

#### ① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
① 走行時間短縮便益 ○ 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無しの走行時間費用－整備有りの走行時間費用 走行時間費用: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{走行時間}) \times \text{時間価値原単位} \times 365\text{日}$
② 走行経費減少便益 ○ 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無しの走行経費－整備有りの走行経費 走行経費: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離}) \times \text{走行距離原単位} \times 365\text{日}$
③ 交通事故減少便益 ○ 交通事故が減少することによる便益	整備無しの事故損失額－整備有りの事故損失額 事故損失額: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離} \times \text{交差点以外の事故損失原単位} + \text{交通量} \times \text{主要交差点数} \times \text{交差点部事故損失原単位})$

#### ② 費用便益費(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B/C	
		便益額 (百万円)			総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)		
道 路	道路改築事業 一般国道 178号	全体 事業 費	走行時間短縮便益	34,700	時間短縮: 11.1分 →7.1分 計画交通: 8,680台/日	38,300	37,600	700	1.1
			走行経費減少便益	6,000					
			交通事故減少便益	1,400					
			計	42,100					
	浜坂道路Ⅱ期	残 事 業 費	走行時間短縮便益	34,700	時間短縮: 11.1分 →7.1分 計画交通: 8,680台/日	35,300	34,600	700	1.2
			走行経費減少便益	6,000					
			交通事故減少便益	1,400					
			計	42,100					



## (2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点		効果項目	該当する事業内容等	
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備)	○	北近畿豊岡自動車道、鳥取自動車道とともに国土のリダンダンシーを確保
		救助・救援活動の支援 (災害時の通行不能や孤立集落の解消)	○	北近畿豊岡自動車道、鳥取自動車道とともに国土のリダンダンシーを確保
		減災対策への取組み (二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)	—	
	平時	救急医療体制の支援	○	第三次救急医療施設へのアクセス性の向上
		交通安全対策	○	通過交通の転換による歩行者、自転車の安全の確保
②地域の活性化		地域間交流の促進	○	高速道路ネットワークの形成による交流人口の拡大
		中心市街地の活性化	—	
		地域産業の活性化	○	高速道路ネットワークの形成による広域観光交流圏の拡充・強化
		観光支援	○	高速道路ネットワークの形成による広域観光交流圏の拡充・強化
		地域プロジェクト等支援	—	
③円滑な交通体系の確保		公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	—	
④地域の環境改善		沿道環境の改善 景観形成	○	通過交通が転換されることによる騒音、排気ガスなどの沿道影響の改善

## (3) 地域からの要望状況等

要望状況等	<p>①新温泉町による残土処分場の新設、地域住民による事業用地取得の協力など、地域の協力体制が整っている。</p> <p>②事業説明会の開催などを通じて、地元と十分に連携を図り事業を進めている。</p>
-------	---